

InterSecVM/CS V7.0 アップデート適用手順書

目次

はじめに	- 4 -
1. アップデートモジュールの適用について	- 5 -
2. オンラインアップデートの手順.....	- 5 -
2.1. 事前準備.....	- 5 -
2.2. オンラインアップデート実行までの操作.....	- 6 -
2.2.1. Management Consoleの起動とログイン.....	- 6 -
2.2.2. トップ画面.....	- 7 -
2.2.3. パッケージ画面.....	- 8 -
2.2.4. ユーザ認証画面.....	- 9 -
2.3. オンラインアップデート手順.....	- 10 -
2.3.1. アップデートモジュール一覧画面	- 10 -
2.3.2. 信頼性の確認画面	- 11 -
2.3.3. アップデートの操作結果通知.....	- 12 -
2.4. システムの再起動	- 13 -
2.5. アップデートモジュールの確認	- 14 -
3. オフラインアップデートの手順.....	- 15 -
3.1. 事前準備.....	- 15 -
3.1.1. アップデートモジュールのダウンロード	- 15 -
3.1.2. アップデート手順の概要	- 16 -
3.2. 手動インストールまでの手順.....	- 17 -
3.2.1. Management Consoleの起動とログイン.....	- 17 -
3.2.2. トップ画面.....	- 18 -
3.2.3. パッケージ画面.....	- 19 -
3.2.4. 手動インストール画面.....	- 20 -
3.3. SCPのアップデート手順.....	- 21 -
3.3.1. サービス画面	- 21 -
3.3.2. 保守用パスワード画面.....	- 22 -
3.3.3. Tera Termでのログイン.....	- 22 -
3.3.4. SCPでの転送	- 22 -
3.3.5. 手動インストール	- 23 -
3.3.6. 手動インストール	- 23 -
3.3.7. 確認ダイアログ.....	- 24 -
3.3.8. アップデートの操作結果通知.....	- 25 -
3.4. 媒体のモジュールのアップデート手順	- 26 -
3.4.1. 手動インストール画面.....	- 26 -
3.4.2. 手動インストール	- 27 -
3.4.3. 確認ダイアログ.....	- 28 -
3.4.4. アップデートの操作結果通知.....	- 29 -

3.5.	webサーバのモジュールのアップデート手順	- 30 -
3.5.1.	手動インストール画面	- 30 -
3.5.2.	確認ダイアログ	- 31 -
3.5.3.	操作結果通知画面	- 32 -
3.6.	システム再起動	- 33 -
3.7.	パッケージの確認	- 34 -
3.7.1.	パッケージ一覧	- 35 -
4.	アップデート適用済み環境で再セットアップとリストアを実施する際の注意事項	- 36 -
4.1.1.	事前準備	- 36 -
4.1.2.	システムの再セットアップ	- 37 -
4.1.3.	リストア	- 37 -
4.1.4.	アップデート適用	- 37 -
4.1.5.	サーバの再起動	- 38 -

はじめに

本ドキュメントは、InterSecVM/CS V7.0（以下、CS と表記します）で公開しているアップデートの適用手順について記載しています。下記の製品が対象です

- UL4652-601 [InterSecVM/CS V7.0 for VMware]
- UL4652-721 [InterSecVM/CS V7.0 for Hyper-V]

CS のアップデート適用は、以下のいずれかの方法で行うことができます。

オンラインアップデート

オンラインアップデートは、CS に必要なアップデートモジュールをインターネット上のアップデート公開サイトから取得し、Management Console 画面から適用します。

オフラインアップデート

アップデートモジュールのコンテンツへの閲覧は、製品保守契約を結んでいただいたお客様向けに可能となります。ダウンロードするためには、NEC サポートポータルサイトへのログインが必要になります。PP サポートの保守契約がお済みでないお客様は、保守契約を締結後、ダウンロードを実施してください。

オフラインアップデートは、予め入手しておいたアップデートモジュールを Management Console 画面から適用します。

1. アップデートモジュールの適用について

- 必ずこの手順書にそって作業を行ってください。この手順以外でのアップデートは誤動作の原因となる場合があります。
- CS にプロキシを介さずに接続できるクライアントマシンを用意してください。
- Management Console への接続は、ブラウザとして MicrosoftEdge（日本語版）を使用してください。
- Management Console に表示されるモジュール名と本手順書の図中のモジュール名は、最新のアップデート環境では、異なる場合があります。
アップデートモジュールは、修正を累積して公開しておりますので、最新のアップデートモジュールの適用となる場合は、適宜、読み替えて適用してください。
- アップデートモジュール適用前や適用後には CS のバックアップ実行を推奨します。
- アップデートモジュール適用後にシステムの再起動が必要な場合があります。システム再起動の要不要は、アップデートのリリースノートをご確認ください。

本書では 3 種類の記号を使用しています。これらの記号と意味をご理解になり、アップデートを実施してください。



InterSecVM/CS の取り扱いや、ソフトウェアの操作で守らなければならない事柄や特に注意をすべき点を示します。



InterSecVM/CS の取り扱いやソフトウェアを操作する上で確認をしておく必要がある点を示します。



知っておくと役に立つ情報や、便利なことなどを示します。

2. オンラインアップデートの手順

オンラインアップデートは、CS に必要なアップデートモジュールをインターネット上のアップデート公開サイトから取得し適用します。全ての操作は、Management Console 画面から行うことができます。

2.1. 事前準備

オンラインアップデートを行われる場合は、CS がインターネット上のサーバに http プロトコルにて接続可能な環境であることが必要です。FW 環境など必要に応じて設定を確認ください。

2.2. オンラインアップデート実行までの操作

2.2.1. Management Console の起動とログイン

ブラウザより「https://CS の IP アドレス:50453/」へアクセスし、Management Console を起動してください(Management Console のセキュリティモードをレベル1に変更している場合は「http://CS の IP アドレス:50090/」となります)。

Management Console のログイン画面(図 1)が表示されましたら、[システム管理者ログイン]をクリックし、ログインしてください。

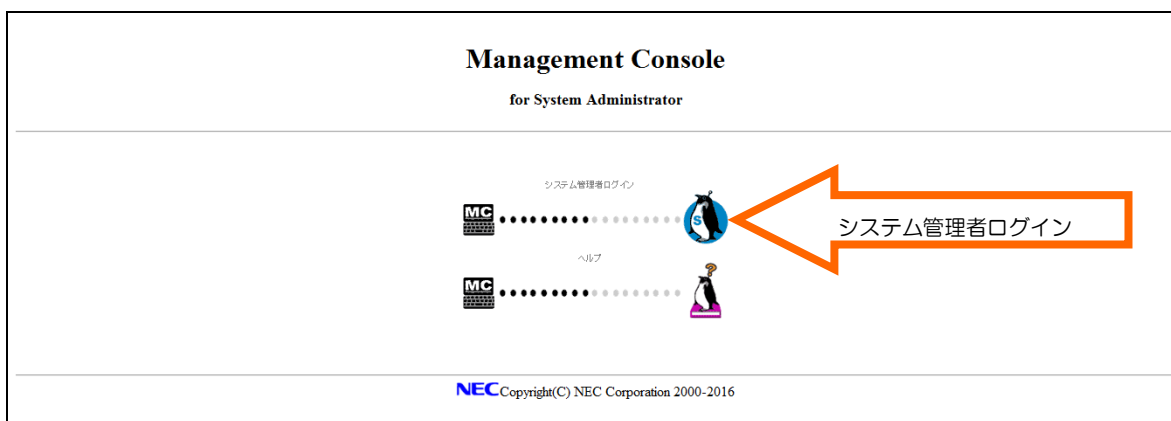


図 1 ログイン画面

2.2.2. トップ画面

ログインが正しく行われますと、トップ画面(図 2)が表示されます。画面左のメニューより「パッケージ」をクリックしてください。



図 2 Management Console のトップ画面

2.2.3. パッケージ画面

パッケージ画面(図 3)が表示されましたら、[■オンラインアップデート]の[オンラインアップデート]をクリックしてください。

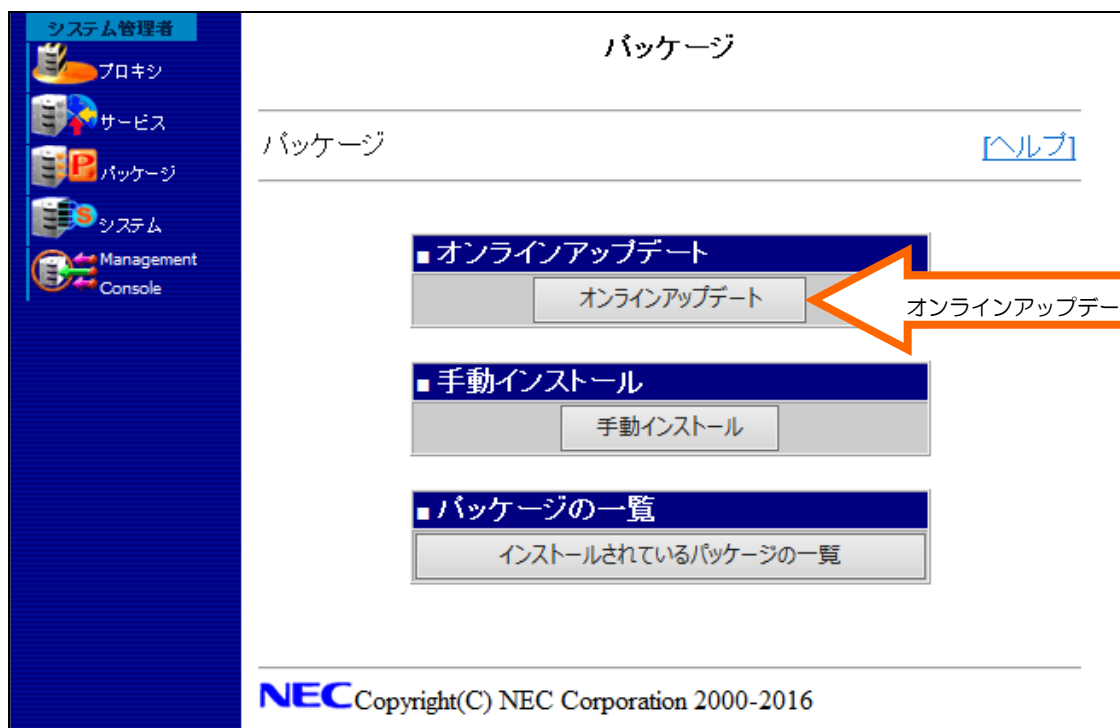


図 3 パッケージ画面

2.2.4. ユーザ認証画面

過去にオンラインアップデートを使用されたことのあるお客様は「2.3.1アップデートモジュール一覧画面」の画面が表示されます。オンラインアップデートを初めて利用されるお客様は、下記画面(図 4)が表示されます。

■ ユーザ認証

基本サポートサービスを購入済みのお客様は、認証を行うことで購入者のみに公開されているアップデートモジュールを適用することができます。未購入のお客様は「認証しない」をクリックしてください。

ユーザID :

パスワード :

サポートID :

SW型番(UL型番)

取得用 proxy アドレス(IPv4) :

取得用 proxy ポート :

図 4 ユーザ認証画面

基本サポートサービスの購入・未購入に関わらず「認証しない」をクリックして進めてください。



サポートサービス未購入のお客様は、認証ができないため、購入ユーザ向けに公開されているモジュールは参照できませんが、未購入ユーザ向けにも公開されているモジュールを「認証しない」ボタンによって参照・適用することが可能です。

2.3. オンラインアップデート手順

2.3.1. アップデートモジュール一覧画面

アップデートモジュールが提供されている公開サーバにインターネット経由で接続を行い、現在公開されているアップデート情報を表示します。(図 5)

既にオンラインアップデートを実行されたことのあるお客様が最新の情報を表示するためには[最新情報に更新]をクリックする必要があります。

アップデートモジュールは適宜更新されます。そのため表示されるアップデートモジュール一覧は下記(図 5)とは異なる場合があります。

最終更新日付: 2017/02/07

■アップデートモジュール一覧		パッケージ名	適用	操作
日付	概要			
		roma-1.5.6-5	未	
		wbmccache-12.3-5	未	
		pound-2.7-1_csi_nec11	未	
		dn4-4.7.25-20.el6_7.i686	未	
		elFutis-libeF-0.161-3.el6.i686	未	
		krb5-libs-1.10.3-42.el6.i686	未	
		libcom_err-1.41.12-22.el6.i686	未	
		libselinux-2.0.94-5.8.el6.i686	未	
		libssh2-1.4.2-2.el6_7.1	未	
		libtalloc-2.1.5-1.el6_7	未	
		libtdb-1.3.8-3.el6_8.2	未	
		libtevent-0.9.26-2.el6_7	未	
		ncurses-libs-5.7-4.20090207.el6.i686	未	
		net-snmp-5.5-57.el6	未	
		net-snmp-devel-5.5-57.el6.i686	未	
		net-snmp-devel-5.5-57.el6	未	
		net-snmp-libs-5.5-57.el6.i686	未	
		net-snmp-libs-5.5-57.el6	未	
		net-snmp-perl-5.5-57.el6	未	
		net-snmp-python-5.5-57.el6	未	
		net-snmp-utils-5.5-57.el6	未	
		nspr-4.10.8-2.el6_7.i686	未	
		nss-3.19.1-5.el6_7.i686	未	
2016/09/30	キャッシュサーバモジュールのアップデート ※アップデートによる追加機能について注意事項がございます。[適用]の前に必ずお読みください。→ [詳細情報]	nss-softokn-3.14.3-23.el6_7.i686	未	適用
		nss-util-3.19.1-2.el6_7.i686	未	
		ntp-4.2.6p5-10.el6.1	未	
		ntpdate-4.2.6p5-10.el6.1	未	

図 5 アップデートモジュール一覧画面例

[詳細情報]や、各パッケージ名をクリックすることで詳細な情報を参照することができます。特に[詳細情報]にはアップデートの適用に関して重要な注意事項が記載されていることがありますので、[適用]をクリックする前に必ずご一読ください。

最新のアップデートモジュールを適用するために、[適用]をクリックしてください。

2.3.2. 信頼性の確認画面

適用対象となるモジュールが信頼できるものか確認するための画面が表示されます。アップデートモジュールは適宜更新されます。そのため表示される画面以下(図 6)とは異なる可能性があります。

■ 信頼性の確認

ファイルの取得が完了しました。
適用前に、ファイルが正しいものかどうか確認を行ってください。
各パッケージのMD5メッセージ・ダイジェストは以下です。

パッケージ	MD5メッセージ・ダイジェスト
ncurses-libs-5.7-4.20090207.el6.i686.rpm	7ea431ea3044bcd240fe1441feb7e3
openssh-5.3p1-118.1.el6_8.x86_64.rpm	0f9e1a32ad7cc8f27c2b93357960c486
libtalloc-2.1.5-1.el6_7.x86_64.rpm	fded780c963dc15fcaee8e5c303c2e89
libssh2-1.4.2-2.el6_7.1.x86_64.rpm	5aca7f810a549708bf9124af434568ab
libcom_err-1.41.12-22.el6.i686.rpm	9d62fd00df3e7a0a50e8f4ecd709b17d
samba-common-3.6.23-35.el6_8.x86_64.rpm	ba8c04429b760a4849c8d15c99c7550c
openssl-devel-1.0.1e-48.el6_8.3.x86_64.rpm	78d5f180870c9d9bd1020374279fe0ce
libevent-0.9.26-2.el6_7.x86_64.rpm	43beb9462a7eaf6261b06bf41254f437
pound-2.7-1_csj_nec11.x86_64.rpm	45d4bd9afdfef2f27721700b00763ab
rpcbind-0.2.0-12.el6.x86_64.rpm	dd83478f17e4b5d2c0f7b1e31b8afbf
ntpdate-4.2.6p5-10.el6.1.x86_64.rpm	658edbe65656e7e41e764e72c3ca870e
nspr-4.10.8-2.el6_7.i686.rpm	c761529ba0ecff8945ffaa665e55e55
openssh-clients-5.3p1-118.1.el6_8.x86_64.rpm	c55b0506471397a706631b8d371a65a6
net-snmp-devel-5.5-57.el6.x86_64.rpm	48df0cec042ad13e1ad6bc57762f9cf4
rpm-libs-4.8.0-47.el6.i686.rpm	f7693327e3b14a8ca802c69f275691e7
libselinux-2.0.94-5.8.el6.i686.rpm	32663723ea1b4525a4af3e8b08ca27e2
roma_wbmcache_update_RHEL6.7.tar.gz	0a7a89109e3ba55efad156723416110e
libtdb-1.3.8-3.el6_8.2.x86_64.rpm	6570c9bc40983bd24b9858b79d15e1d
poprt-1.13-7.el6.i686.rpm	15b7303522bfda19be129757f14332bd
ntp-4.2.6p5-10.el6.1.x86_64.rpm	934a8960822ee71124a322fb2f90663
pytalloc-2.1.5-1.el6_7.x86_64.rpm	771d28d063edf7993da032b58880409f
nss-softoken-3.14.3-23.el6_7.i686.rpm	cc9d331c94db51a9dd71ed0806f5be1
tehrnet-0.17-48.el6.x86_64.rpm	84d6b815a906ed5bfc12f6974367d41
readline-6.0-4.el6.i686.rpm	87134534a3132a69fe529eed1ce03167
openssl-1.0.1e-48.el6_8.3.x86_64.rpm	d752225e6b3ae2044e7453331d832323
nss-util-3.19.1-2.el6_7.i686.rpm	4d4505922929cfe95dad7bb58033a99
nss-3.19.1-5.el6_7.i686.rpm	823bf508d08d85e7d20d59b4bae27
samba-winbind-3.6.23-35.el6_8.x86_64.rpm	d1b642bd9ad99be75dc9a81c94958af
net-snmp-python-5.5-57.el6.x86_64.rpm	8528de704172bbfb27b59be707dc6e70
sqlite-3.6.20-1.el6_7.2.i686.rpm	862bcf9d67c8025093ae16c3809546d2
samba-winbind-clients-3.6.23-35.el6_8.x86_64.rpm	d5e7f181ec1dbad95dae324f6acc3b59
roma-15.6-5.x86_64.rpm	e8108974a0a67eaf588e01fb095910ce
elfutils-libelf-0.161-3.el6.i686.rpm	e3f418ee7bf43998473320ef55b1dfc
xinetd-2.3.14-40.el6.x86_64.rpm	0f25c03aa9dfa0ca4a572025319c610
samba-client-3.6.23-35.el6_8.x86_64.rpm	720adcd71c604e395e72153f67ca700
db4-4.7.25-20.el6_7.i686.rpm	81abcf5f7d832051236bec7b29cf79f
krb5-libs-1.10.3-42.el6.i686.rpm	43bf58c9a0c7812cad1a38266ba4e9cd
net-snmp-utils-5.5-57.el6.x86_64.rpm	a5872079f9eed11f45b048ca9d3309e
net-snmp-perl-5.5-57.el6.x86_64.rpm	ab9a41ebcdca06bb68a6da1d8ed29c1
openssl-1.0.1e-48.el6_8.3.i686.rpm	b8cbf4a425da8adb476da890e7f48a9
perl-libs-5.10.1-141.el6_7.1.i686.rpm	0c7f16213be99b0975f0f55700a60a0e
net-snmp-libs-5.5-57.el6.x86_64.rpm	99f9f041e73bc3a7262e42da7394a0aa
openssh-server-5.3p1-118.1.el6_8.x86_64.rpm	816ae202e1acc05d864a3e4500105f6b
wbmcache-12.3-5.x86_64.rpm	4db462f81544f15b6b32b376a06e3be4
net-snmp-libs-5.5-57.el6.i686.rpm	7b97dcde3c12a4771694d5a497f61ad7
samba4-libs-4.2.10-6.el6_7.x86_64.rpm	79d68b0a54e085e7d03d5cbf25931c2a

弊社アップデートモジュール公開ウェブサイトに掲載されている文字列と比較してください。同じ場合は正常に転送されています。「OK」ボタンをクリックするとインストールを実行します。文字列が異なる場合は、転送に失敗している可能性があります。「キャンセル」でモジュール一覧画面に戻り、再度「適用」を実行してください。

図 6 信頼性の確認画面例



この画面が表示された場合は、信頼性の確認が正常に行われています。
[OK]をクリックして次へ進んでください。

2.3.3. アップデートの操作結果通知

アップデートが正常に完了した場合には以下のような操作結果通知画面が表示されます。(図 7) アップデートが失敗したメッセージが表示された場合は、「2.2.2 トップ画面」から再度実行してください。

操作結果通知

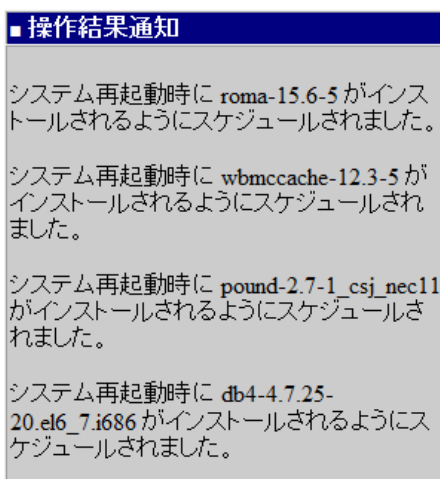


図 7 操作結果通知画面例

2.4. システムの再起動

システムの再起動が必要なメッセージが表示された場合には、画面左のメニューから、[システム]をクリックしてください。[システム]画面(図 8)が表示されます。



図 8 システム画面

[システムの再起動]をクリックしますと、システムの再起動が行われます。
再起動には数分かかります。



システム再起動が必要なメッセージが表示されるアップデートの適用の場合、アップデートモジュールを実際に適用するのは、システム再起動時となりますので、システム再起動を行うまでは適用前のモジュールで通常通り動作します。アップデートモジュールの適用だけを先に実施し、システム再起動はアクセスが少ない時間帯(深夜)等に行うことも可能です。

2.5. アップデートモジュールの確認

前項までの作業が終了したら再度アップデートモジュール一覧画面を開きます。適用したモジュールがアップデートモジュール一覧に表示されていない場合は、アップデートは正常に終了しています。

正常にアップデートされたモジュールは、今後、アップデートモジュール一覧画面に表示されることはありません。

未適用のモジュールがアップデートモジュール一覧画面に存在する場合には、「2.3オンラインアップデート手順」から「2.4システムの再起動」の手順で未適用モジュールを適用してください。

以下の画面（図 9）が表示されるとモジュールのインストール作業は全て完了です。

最終更新日付: 2017/02/07

最新情報に更新

■ アップデートモジュール一覧				
日付	概要	パッケージ名	適用	操作
既存のアップデートモジュールは適用済みです。				

図 9 アップデートの完了

以上でオンラインアップデート作業は終了です。

3. オフラインアップデートの手順

オフラインアップデートは、CSに必要なアップデートモジュールをインターネット上のアップデート公開サイトから取得し適用します。全ての操作は、Management Console画面から行うことができます。

3.1. 事前準備

3.1.1. アップデートモジュールのダウンロード

NEC サポートポータル<<https://www.support.nec.co.jp/PSHome.aspx>>(図 10)のご契約者はこちらの「ログイン画面」から必要事項を入力してログインし、ダウンロード(修正情報)から InterSecVM/CS V7.0 のコンテンツを検索しアップデートモジュールをダウンロードします。

CSに関するアップデートモジュールが公開されている場合ダウンロードができます。ダウンロードしたアップデートモジュールのファイルサイズが正しいことを確認します。モジュールに関する詳細な情報は、リリースノートに記載されている情報を確認してください。なお、他機種用モジュールを適用しますと、CSは正常に動作しなくなりますので、注意してください。



図 10 サポートポータルログイン画面



ご契約者様のみが閲覧可能なコンテンツとなるため、ログインに必要なユーザ ID その他の情報については、事前に登録が完了している必要があります。

3.1.2. アップデート手順の概要

アップデートには3つの方法があります。

- (1)SCPなどでCS上にアップデートモジュールを格納し、アップデートを行います。
- (2)CD-R、CD-RWなどのCD媒体（DVDメディアも可能）にアップデートモジュールを格納し、アップデートを行います。
- (3)ローカルのwebサーバにアップデートモジュールを置き、アップデートを行います。

事前準備を行ったあと、(1)の方法でアップデートをする場合には「3.3SCPのアップデート手順」へ、(2)の方法でアップデートする場合には「3.4媒体のモジュールのアップデート手順」へ、(3)の方法でアップデートする場合には「3.5webサーバのモジュールのアップデート手順」へ進んでください。

最後に、アップデートが正常に行われたかを確認するために「3.6システム再起動」以後の手順に従って作業を行ってください。

なお、手順書内のキャプチャ画像は操作例を示すためバージョン番号などの表示内容が実際と異なる場合があります。適宜、最新のバージョンの情報に読み替えてください。

また、(3)の方法でアップデートを行う際、ご使用のWebサーバの種類によっては、アップデートモジュールを正しく転送できない場合があります。モジュールの転送に失敗する場合は、(1)、(2)の方法でアップデートを行ってください。

3.2. 手動インストールまでの手順

3.2.1. Management Console の起動とログイン

ブラウザより「https://CS の IP アドレス:50453/」へアクセスし、Management Console を起動してください(Management Console のセキュリティモードをレベル1に変更している場合は「http://CS の IP アドレス:50090/」となります)。

Management Console のログイン画面(図 11)が表示されましたら、[システム管理者ログイン]をクリックし、ログインしてください。

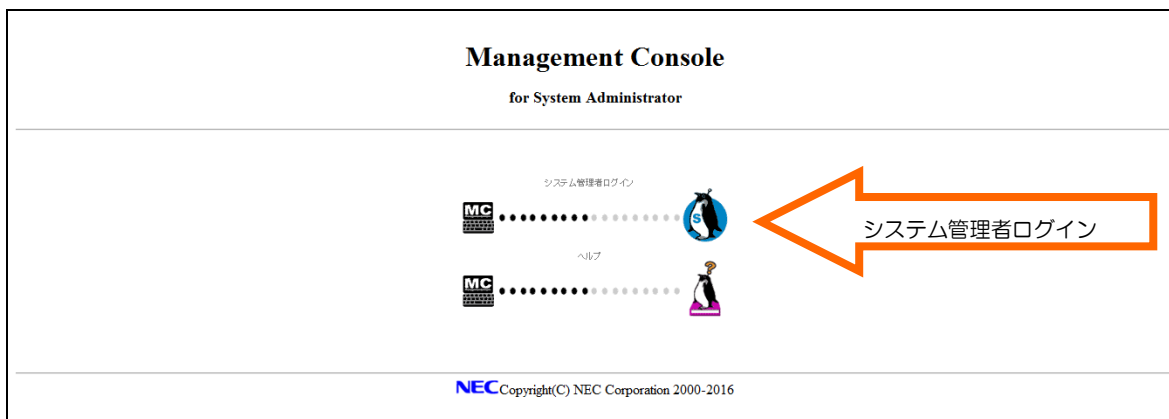


図 11 ログイン画面

3.2.2. トップ画面

ログインが正しく行われますと、トップ画面(図 12)が表示されます。画面左のメニューより「パッケージ」をクリックしてください。



図 12 Management Console のトップ画面

3.2.3. パッケージ画面

パッケージ画面(図 13)が表示されましたら、[■手動インストール]の[手動インストール]をクリックしてください。

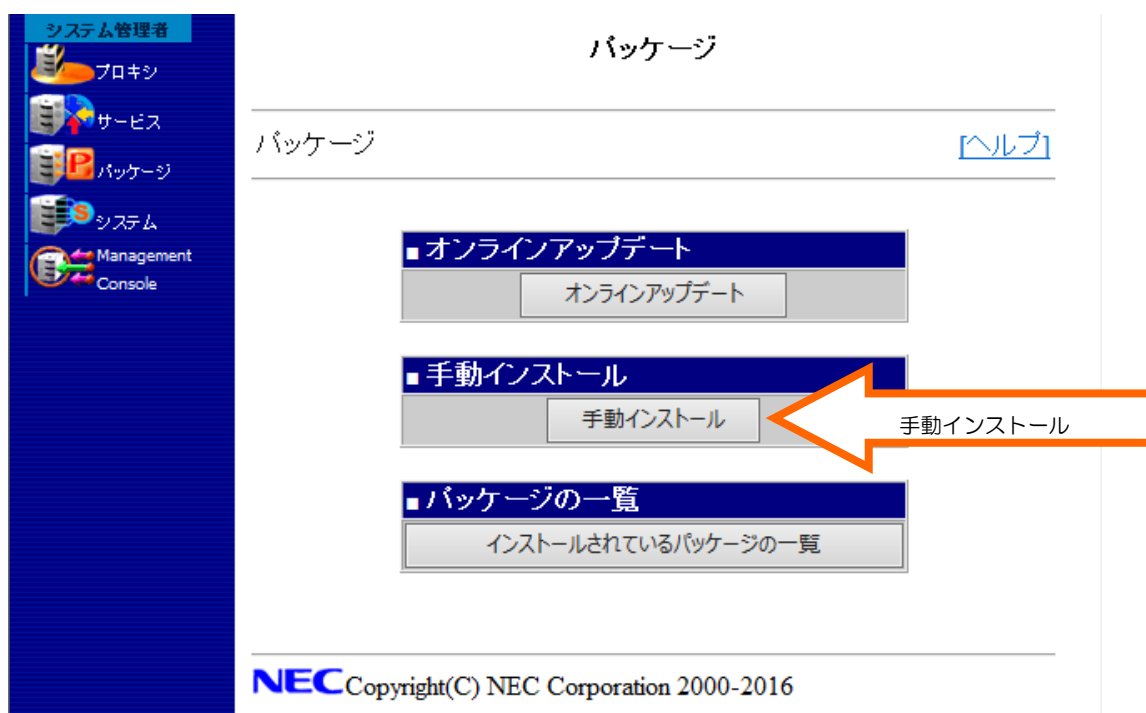


図 13 パッケージ画面

3.2.4. 手動インストール画面

手動インストール画面(図 14)が表示されます。

The screenshot shows a web-based management interface for manual installation. On the left is a vertical navigation menu with icons for 'システム管理者' (System Administrator), 'プロキシ' (Proxy), 'サービス' (Service), 'パッケージ' (Package), 'システム Management Console' (System Management Console), and 'Management Console'. The main content area is titled '手動インストール' (Manual Installation) and contains a breadcrumb 'パッケージ > 手動インストール' and a '戻る' (Back) button. Two configuration panels are visible: 'ローカルディレクトリ指定' (Local Directory Specification) with a text input field containing '/media/dvd' and a '参照' (Reference) button; and 'URL指定' (URL Specification) with input fields for 'URL:', 'PROXY:', and 'PORT:', and an '追加' (Add) button. At the bottom, there is a copyright notice: 'NEC Copyright(C) NEC Corporation 2000-2016'.

図 14 手動インストール画面

3.3. SCPのアップデート手順

SCPを用いたモジュールのアップデートを行います。

本手順では例として「Tera Term」を使用した手順で行います。

3.3.1. サービス画面

リモートシェル(sshd)の「現在の状態」が「停止中」の場合「起動」ボタンを押し、「起動中」と表示される事を確認してください。

■ サービス				
OS 起動時 の状態	現在の 状態	(再)起 動	停止	サービス
停止 ▾	停止中	起動	停止	時刻設定(chronyd)
停止 ▾	停止中	起動	停止	i-FILTER (※プレインストールされているi-FILTER以外のi-FILTER を使用する場合は、右上の[ヘルプ]の注意事項を参照してください。)
-	-	起動	停止	InterSafe WebFilter (※プレインストールされているInterSafe WebFilter以外の InterSafe WebFilterまたはInterScan WebManagerを使用する場合は、 右上の[ヘルプ]の注意事項を参照してください。)
起動 ▾	起動中	再起動	停止	actlog
停止 ▾	停止中	起動	停止	ネットワーク管理エージェント(snmpd)
停止 ▾	停止中	起動	停止	リモートシェル(sshd)
起動 ▾	起動中	再起動	停止	WPADサーバ(wpad-httpd)

設定

図 15 サービス画面

3.3.2. 保守用パスワード画面

SSH でログインする保守用ユーザ(mainte)のパスワードの設定を行い「設定」ボタンを押してください。

図 17 保守用パスワード画面

3.3.3. Tera Term でのログイン

Tera Term で「SSH」を選択し「保守用ユーザ(mainte)」でログインします。

図 18 Tera Term 画面

3.3.4. SCP での転送

Tera Term の「ファイル(F)」の「SSH SCP」をクリックし、「From」の「...」をクリックし転送するアップデートモジュールを選択します。

図 19 Tera Term 画面

3.3.5. 手動インストール

[■ローカルディレクトリ指定]の[ディレクトリ]に”/home/users/mainte”を指定し [参照]をクリックしてください(図 20)。



図 20 手動インストール画面

3.3.6. 手動インストール

ディレクトリ内のアップデートモジュールが表示されます。(図 21)
アップデートモジュールの文字列の左横にある[追加]をクリックしてください。
なお、”/media/dvd/offlineupdates-15.1-3j.x86_64.rpm”等の文字列をクリックすると
アップデートモジュールの詳細な情報を参照することができます。



図 21 パッケージ一覧

3.3.7. 確認ダイアログ

[追加]クリック後、確認のダイアログ(図 22)が表示されます。[OK]を押してください。



図 22 確認ダイアログ



クリック後は操作結果通知画面が表示されるまで数十秒かかることがありますので、しばらくお待ちください。結果が表示される前にクリック等の操作を行った場合、正常にインストールされない可能性がありますのでご注意ください。

3.3.8. アップデートの操作結果通知

操作結果通知画面(図 23)の通知画面が表示されたらアップデートモジュールのインストールは正常に完了したことになります。操作結果通知画面でエラーが表示された場合には「3.3.6手動インストール」からもう一度やり直してください。



モジュールをインストールしたとき、"`warning:/opt/nec/roma/etc/roma.conf created as ~`"というメッセージが出力されることがあります。これは、既に存在していたユーザ設定済みの設定ファイルを置き換えずに他のファイル名で保存しました、という意味のメッセージで、エラーではありません（動作に支障はありません）。

また、操作結果通知画面が表示されずにタイムアウトが起こった場合には[システム]→[システムの再起動]をクリックしてOSの再起動を行ったあと、もう一度「3.2手動インストールまでの手順」からやり直してください。

操作結果通知

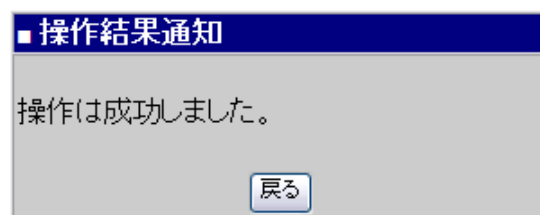


図 23 操作結果通知画面例

以上で手順は終了です。

アップデートを完了させるため、「3.6システム再起動」を実行し適用状態の確認を行ってください。

3.4. 媒体のモジュールのアップデート手順

CD 媒体を用いたモジュールのアップデートを行います。

作成する媒体のフォーマットは「UDF 2.01」等の Linux で認識可能なものを選択し、媒体に対してクローニングを行ってください。

3.4.1. 手動インストール画面

CS の DVD-ROM ドライブに「3.1事前準備」で作成したメディア（CD 媒体もしくは DVD 媒体）を挿入してください。

その後、[■ローカルディレクトリ指定]の[ディレクトリ]に”/media/dvd”を指定し [参照]をクリックしてください(図 24)。

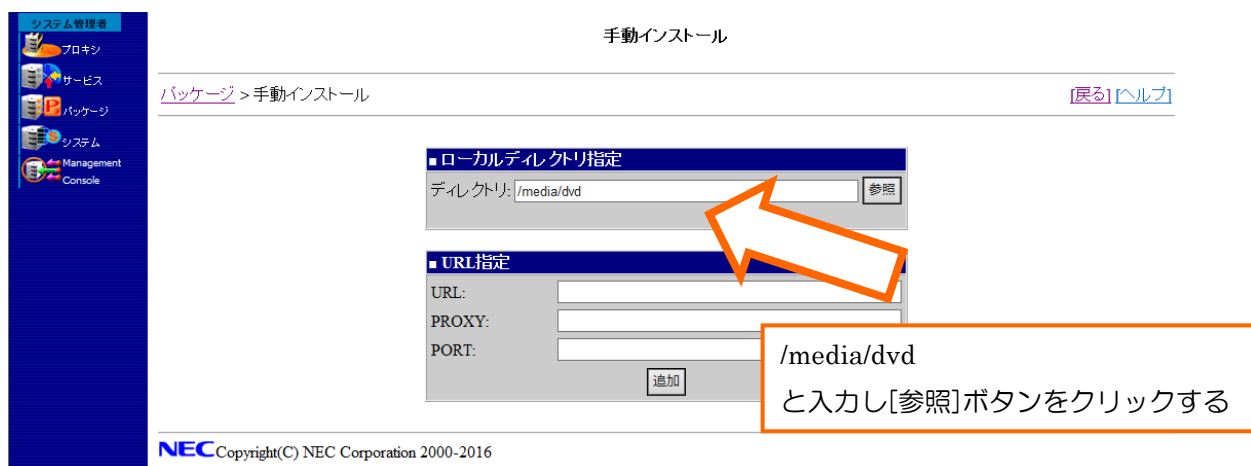


図 24 手動インストール画面

3.4.2. 手動インストール

メディア媒体内のアップデートモジュールが表示されます。(図 25)
アップデートモジュールの文字列の左横にある[追加]をクリックしてください。
なお、”/media/dvd/offlineupdates-15.1-3j.x86_64.rpm”等の文字列をクリックすると
アップデートモジュールの詳細な情報を参照することができます。



図 25 パッケージ一覧

3.4.3. 確認ダイアログ

[追加]クリック後、確認のダイアログ(図 26)が表示されます。[OK]を押してください。



図 26 確認ダイアログ



クリック後は操作結果通知画面が表示されるまで数十秒かかることがありますので、しばらくお待ちください。結果が表示される前にクリック等の操作を行った場合、正常にインストールされない可能性がありますのでご注意ください。

3.4.4. アップデートの操作結果通知

操作結果通知画面(図 27)の通知画面が表示されたらアップデートモジュールのインストールは正常に完了したことになります。操作結果通知画面でエラーが表示された場合には「3.4.1手動インストール画面」からもう一度やり直してください。



モジュールをインストールしたとき、"`warning:/opt/nec/roma/etc/roma.conf created as ~`"というメッセージが出力されることがあります。これは、既に存在していたユーザ設定済みの設定ファイルを置き換えずに他のファイル名で保存しました、という意味のメッセージで、エラーではありません（動作に支障はありません）。

また、操作結果通知画面が表示されずにタイムアウトが起こった場合には[システム]→[システムの再起動]をクリックしてOSの再起動を行ったあと、もう一度「3.2手動インストールまでの手順」からやり直してください。

操作結果通知

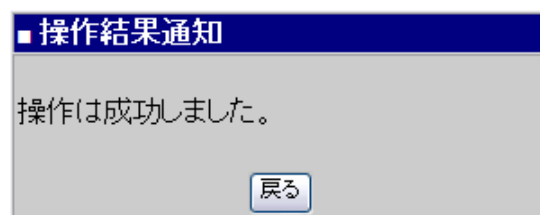


図 27 操作結果通知画面例

以上で手順は終了です。

アップデートを完了させるため、「3.6システム再起動」を実行し適用状態の確認を行ってください。

3.5. web サーバのモジュールのアップデート手順

web サーバを用いたモジュールのアップデートを行います。

3.5.1. 手動インストール画面

「3.2手動インストールまでの手順」が終了したら、[■URL 指定]の[URL]にアップデートモジュールの URL を指定します(図 28)。

CS では、プロキシ指定が可能となっています。アップデートモジュールを格納したサーバへプロキシ経由でアクセスする必要がある場合は、以下の操作を行います。

[■URL 指定]の[PROXY]に「プロキシ」の基本設定画面に設定されている” キャッシュサーバ IP アドレス”の IP アドレスを指定します。

[■URL 指定]の[PORT]に「プロキシ」の基本設定画面に設定されている” キャッシュサーバポート番号”のポート番号を指定します。

必要事項を入力し、[追加]ボタンをクリックします。

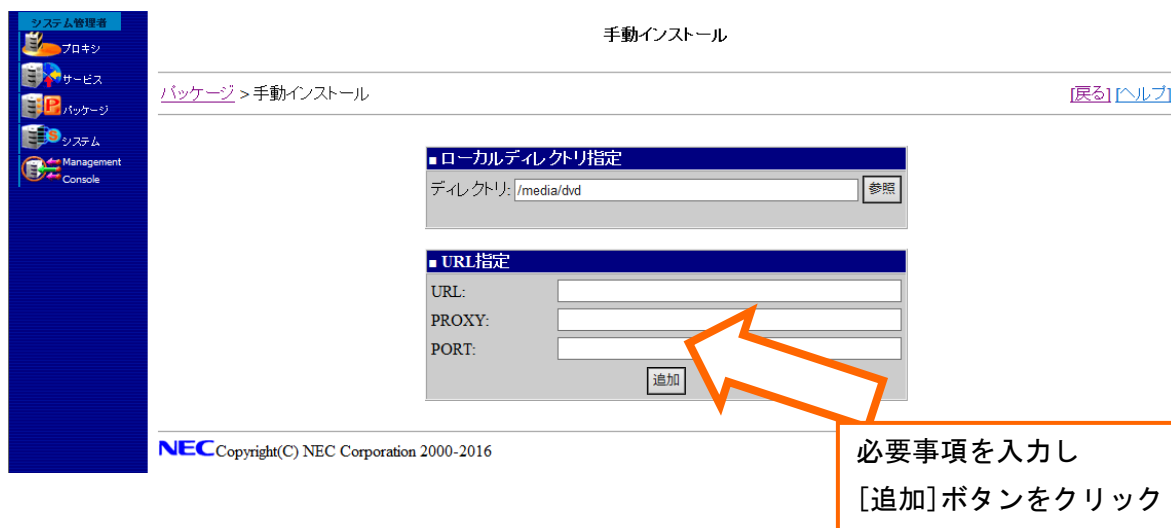


図 28 手動インストール画面

3.5.2. 確認ダイアログ

[追加]クリック後、確認のダイアログ(図 29)が表示されます。[OK]を押してください。



図 29 確認ダイアログ



クリック後は操作結果通知画面が表示されるまで数十秒かかることがありますので、しばらくお待ちください。結果が表示される前にクリック等の操作を行った場合、正常にインストールされない可能性がありますのでご注意ください。

3.5.3. 操作結果通知画面

操作結果通知画面(図 30)が表示されたらアップデートモジュールのインストールは正常に完了したことになります。操作結果通知画面でエラーが表示された場合には、「3.5.1手動インストール画面」からもう一度やり直してください。

また、操作結果通知画面が表示されずにタイムアウトが起こった場合には[システム]→[システムの再起動]をクリックしてCSの再起動を行ったあと、もう一度「3.1事前準備」からやり直してください。

操作結果通知

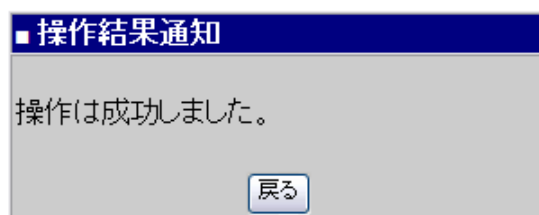


図 30 操作結果通知確認画面例

以上で手順は終了です。

アップデートを完了させるため、「3.6システム再起動」を実行し適用状態の確認を行ってください。

3.6. システム再起動

システム再起動を行ってアップデートを完了させます。再起動完了後、適用状態の確認を行います。なお、システム再起動が不要なことを示すメッセージが表示された場合は、再起動は不要です。

画面左のメニューから、[システム]をクリックしてください。

システム画面(図 31)が表示されます。



図 31 システム画面

[システムの再起動]をクリックしますと、システムの再起動を行います。

再起動には数分かかります。



システム再起動が必要なメッセージが表示されるアップデートの適用の場合、アップデートモジュールを実際に適用するのは、システム再起動時となりますので、システム再起動を行うまでは適用前のモジュールで通常通り動作します。アップデートモジュールの適用だけを先に実施し、システム再起動はアクセスが少ない時間帯(深夜)等に行うことも可能です。

3.7. パッケージの確認

アップデートモジュールが正常にインストールされたか確認します。パッケージ画面(図 32)を表示し、[■パッケージ一覧]の[インストールされているパッケージの一覧]をクリックします。

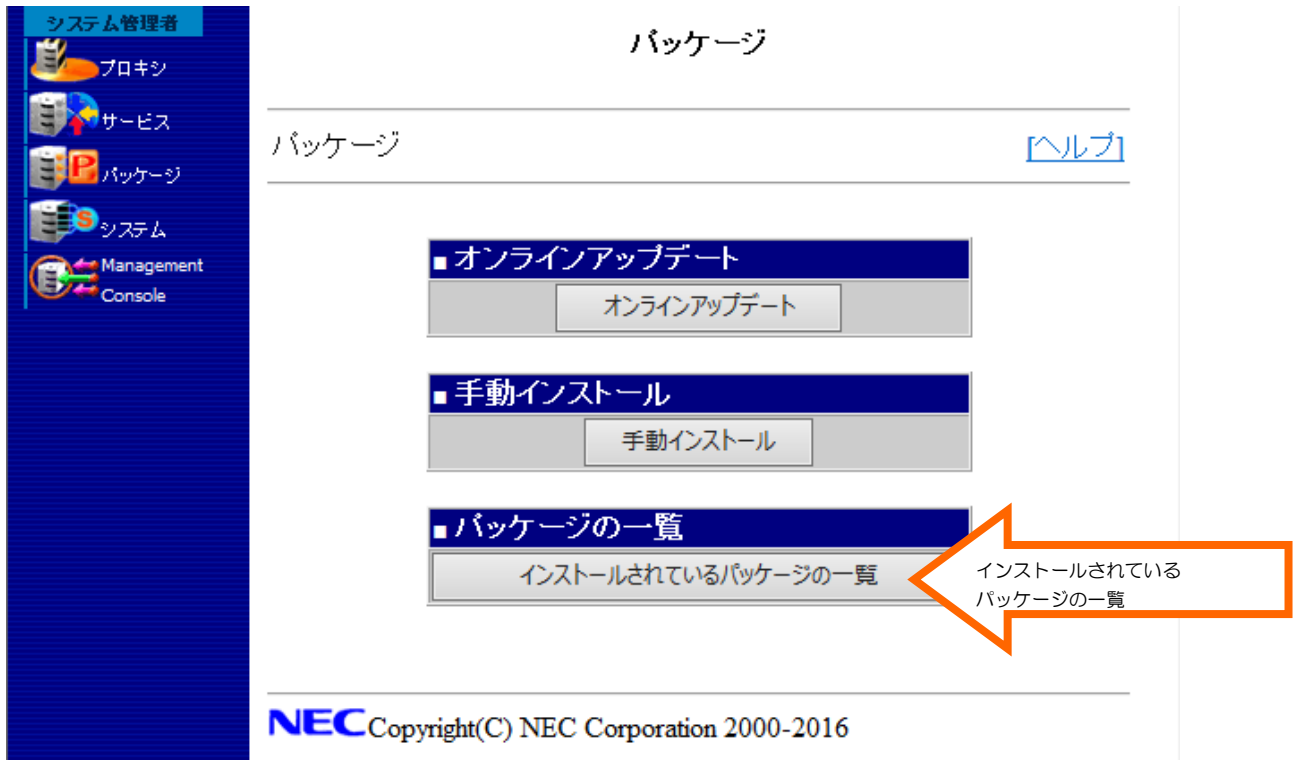


図 32 パッケージ画面

3.7.1. パッケージ一覧

パッケージ一覧画面(図 33)が表示されたあと、パッケージ一覧の中から「3.1事前準備」で準備したアップデートモジュールが存在することを確認してください。

存在していない場合、「3.2.1Management Consoleの起動とログイン」からもう一度アップデート作業を行ってください。



バージョン番号に注意して確認してください。
パッケージ一覧には「.x86_64.rpm」の文字は表示されませんのでご注意ください。

■ パッケージ一覧		
グループ	パッケージ名	概要
System Environment Base	tzdata-2010e-1.el5	Timezone data
Applications/Archiving	rmt-0.4b41-4.el5	Provides certain programs with access to remote tape devices

図 33 パッケージ一覧画面

4. アップデート適用済み環境で再セットアップとリストアを実施する際の注意事項



アップデートモジュールが適用済みの環境で再セットアップとリストアを行う際は、**モジュールのバージョンと設定ファイルのバージョンを合わせる必要があります**。下記の手順により再セットアップとリストアを実施してください。

4.1.1. 事前準備

再セットアップ後にリストアを行う場合は、事前に Management Console の「システム」→「バックアップ/リストア (図 34)」にて、バックアップを実施します。

※詳細は、同画面右上の[ヘルプ]をご確認ください。

■バックアップ/リストア一覧			
操作	説明	世代数	タイミング
バックアップ 編集 リストア	システムの設定ファイル	5	バックアップしない
バックアップ 編集 リストア	プロキシサーバの設定ファイル	5	バックアップしない
バックアップ 編集 リストア	各種ログファイル	5	バックアップしない
バックアップ 編集 リストア	プロキシアクセス統計情報	5	バックアップしない
バックアップ 編集 リストア	ディレクトリ指定	5	バックアップしない

図 34 バックアップ/リストア画面

4.1.2. システムの再セットアップ

システムの再セットアップに関する手順等は、インストール DVD に付属の「ユーザズガイド」の【システムのセットアップ→再セットアップ】を確認ください。

4.1.3. リストア

• リストアを行う場合は、Management Console の「システム」→「バックアップ/リストア (図 34)」にて、リストアを実施します。

※詳細は、同画面右上の[ヘルプ]をご確認ください。

• リストアを行わない場合は、「4.1.4アップデート適用」へ進んでください。



リストアを行う場合は、必ずアップデート適用前に実施してください。
また、「4.1.4アップデート適用」のアップデートを適用するまでは、絶対に設定変更やシステム再起動を行わないでください。

4.1.4. アップデート適用

バックアップを行った際に使用していたモジュール、もしくは、使用していたモジュールよりも新しいモジュールを適用します。



基本的には、作業時に公開されているアップデートモジュールを適用することで整合が取れますが、個別提供等で公開モジュールより新しいモジュールを使用されている場合は、必ずそのモジュールを適用してください。

4.1.5. サーバの再起動

画面左のメニューから、[システム]をクリックしてください。

[システム]画面(図 35)が表示されます。



システム再起動を行うまで、モジュールと設定ファイルの整合が取れないため、アップデート適用後は、すぐにシステム再起動を行ってください。



図 35 システム画面

[システムの再起動]をクリックすると、システムの再起動が行われます。
再起動には数分かかります。